

学校教育目標	心豊かでたくましく 共に生きる児童の育成
目指す学校像	知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた児童を育成する学校
重点目標	1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「多様な学び」の実現 2 予測困難な時代を生き抜くためのエージェンシーの育成 3 子ども・家庭・地域とともに歩む学校づくりの推進 4 安全安心で潤いのある教育環境の整備 5 「教え方改革」「働き方改革」による教職員の授業力・指導力向上

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和8年2月5日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人1台端末を活用した授業づくりを各教科へと更を広げて、指導を充実させていきたい。</li> <li>学習習慣の定着に向けて、懇談会等の場も活用し、家庭と学校の連携・協力を図っていく。</li> <li>ICTスキルの向上や個人差に応じた指導にも取り組んでいく。</li> <li>「Sola る一む」の活用をはじめ、多様な学びができる学習環境を整備していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学びの質の向上と学習習慣の定着</li> <li>個に応じた指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットなどのICTを効果的に活用した授業を展開し、児童一人ひとりが充実感、達成感を味わうことができる学習指導の実施。</li> <li>自立を促すコーチングの連携・共有。</li> <li>ICT活用能力を向上させるICTタイムの導入。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート「タブレットを進んで使うことができる(児童)」の評価向上(R6:92%→R7:95%)。</li> <li>「友だちの考えを知り、自分の考えが広がったり、深まったりすることがたくさんあった(児童)」の評価向上(R6:88%→R7:92%)。</li> <li>多様な学びの場を工夫し、誰一人取り残さない教育活動を実現できているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「タブレットを進んで使うことができる」目標95%→94%。</li> <li>1人1台タブレット型PCの活用を各教科へと拡充することができた。</li> <li>「友だちの考えを知り、自分の考えが広がったり、深まったりすることがたくさんあった」目標92%→92%。</li> <li>「Sola る一む」にバーテーションを増設するなどの環境整備を進めるとともに、児童の状況に応じて専門職等と連携し、個に応じた柔軟な学び方ができるようにした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は、より自立した学習者を育て、深い学びを実現する学習指導を充実させていきたい。</li> <li>児童の笑顔や成長に向けて「承認」や「問いかけ」、「言語化」を重点に、コーチングの手法について教職員、保護者の共通理解を深めていく。</li> <li>朝のICTタイムを充実させて、タブレット端末の操作スキルや情報リテラシーの向上を図る。</li> <li>協働的な学びを生かしながら、どの子も伸ばす指導と評価に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯にわたって学びに向かう力を身に付けることができるように、学びの改革に継続して取り組んでいきたい。</li> <li>ICT機器や情報を上手に活用できる力を保護者とも連携しながら、子どもたちに身に付けさせたい。</li> <li>自立を促す指導と併せて、一人ひとりの児童へのフォローアップにも力を入れたい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育や教育相談の視点による指導・支援の方法について全教職員で共有し、学校全体で支援を行う。</li> <li>保護者と連携した基本的な生活習慣の定着と「あいさつ運動・あいさつ通り」の取組の実施。</li> <li>外遊び等での交流タイムや異学年交流行事、児童主体の取組の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート「学校生活を楽しく過ごしている(児童)」の評価向上(R6:90%→R7:93%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校生活を楽しく過ごしている」目標93%→95%。</li> <li>家庭学習や心を潤す4つの言葉の項目においても、肯定的な評価が向上した。</li> <li>週に1回のロング昼休みでは、教職員も積極的に校庭に出て児童と交流する取組を推進した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会活動等では、児童の自主性や主体性を育てる取組を一層、推進していきたい。</li> <li>縦割り交流、給食交流等を通して、人とかかわり、つながる楽しさを感じることができる活動を重視していく。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、全校児童一人ひとりの表情を見取り、おはようメーターの入力状況等も確認して児童の様子を把握し、心配な子への見守りや声掛けにつないでいく。</li> <li>「心を潤す4つの言葉」や「あいさつ」については家庭でも話題にしよう。</li> <li>児童主体のルールメイキング等の取組も推進していきたい。</li> <li>暑さ指数や雨風等に留意しながら、安全に外遊びが行えるように、安全教育を進めていく。</li> <li>縄跳びチャレンジなどの取組とも関連付けながら体力向上を図りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会性やコミュニケーション能力の育成</li> <li>健やかな身体育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育や教育相談の視点による指導・支援の方法について全教職員で共有し、学校全体で支援を行う。</li> <li>保護者と連携した基本的な生活習慣の定着と「あいさつ運動・あいさつ通り」の取組の実施。</li> <li>外遊び等での交流タイムや異学年交流行事、児童主体の取組の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート「学校生活を楽しく過ごしている(児童)」の評価向上(R6:90%→R7:93%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校生活を楽しく過ごしている」目標93%→95%。</li> <li>家庭学習や心を潤す4つの言葉の項目においても、肯定的な評価が向上した。</li> <li>週に1回のロング昼休みでは、教職員も積極的に校庭に出て児童と交流する取組を推進した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>集会活動等では、児童の自主性や主体性を育てる取組を一層、推進していきたい。</li> <li>縦割り交流、給食交流等を通して、人とかかわり、つながる楽しさを感じることができる活動を重視していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が学校生活を楽しく過ごしているのは何よりであり、本校のアットホームな雰囲気をも今後大事にしてほしい。</li> <li>コミュニケーションの基本である「心を潤す4つの言葉」は、全教職員の共通理解のもと、更に推進してほしい。</li> <li>熱中症対策で運動制限のある日も増えていると思うが、子どもたちはよく遊んでいる。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な生活と健やかな身体づくりの理解に向けた組織的、積極的な安全教育・保健指導・食育の実施。</li> <li>体育における慣れの運動等の導入、運動時間の確保、外遊びの推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート「進んで、外で遊んだり、運動したりしている(児童)」の評価向上(R6:77%→R7:80%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「進んで、外で遊んだり、運動したりしている」目標80%→75%。</li> <li>健康の保持増進に係る学校評価項目で、88%→93%と、健康教育の成果を出し、安全安心な給食も提供した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動が苦手な児童に対する指導や支援を充実させ、運動に親しみ、運動好きな児童を増やしていく。</li> <li>校長講話や朝会等も活用して、健康に関する指導を継続的に実施する。</li> </ul>	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>中島小学校の児童を中心に、「あいさつ運動・あいさつ通り」を発展させて、中島地区、中島小学校に関わる人がお互いにあいさつを交わす取組を広げていきたい。</li> <li>教職員や保護者が地域の歩みや文化等を知る機会、研修の場を作っていく。</li> <li>地域のお祭り等に金管バンドをはじめ、多くの児童の参加を図る。</li> <li>PTAや地域の行事に参加した児童の感想等を校内に広げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールの実施</li> <li>PTAや育成会等の地域との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あいさつ通り」の横断幕を作成、表示し、「コミュニティ・スクール」の推進と協働活動の活発化に結び付ける。</li> <li>地域の人材等を活用した児童の学習活動や教職員等研修会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営協議会を中心に、児童の声も聞きながら、学校・家庭・地域が連携・協力して、協働活動に取り組んでいるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校外で互いにあいさつを交わす協働活動を推進するため、「あいさつ通り」の横断幕を作成し、通学路の複数箇所に掲示した。</li> <li>学校運営協議会に5・6年生の代表児童も参加して熟議を行い、意見交換した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は、児童と地域の交流を深める機会を重視し、「あいさつ通り」等の取組を更に発展させていきたい。</li> <li>引き続き、地域やPTA主催の体験活動等に連携・協力していきながら、相互に顔見知りの関係を築いていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動は、家庭との連携が不可欠であり、あいさつ通りの取組を広く周知していく必要がある。</li> <li>あいさつ運動推進にあたっては、児童のアイデアも取り入れていけるとよい。</li> <li>PTAや育成会の行事に楽しく参加している児童が増えている点は、この地域のよさとして更に交流を推進したい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>交流給食や行事等を生かし、地域の方と交流する場を積極的に創出する。</li> <li>PTAや育成会の行事等について、学校日より等で積極的に情報発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評価アンケート「地域の人といっしょに活動するのは楽しい(児童)」の評価向上(R6:72%→R7:75%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域の人といっしょに活動するのは楽しい」目標75%→76%。</li> <li>地域行事等への参加に係る学校評価項目で、72%→81%と、地域とともにある学校づくりを具現化することができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「防犯、学習支援、除草等のボランティアの方と児童の交流を推進していく。</li> <li>金管バンドをはじめ、多くの児童が地域行事に参加できるよう、地域のお祭り等への参加を児童に促していく。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内のトラブルや事故等に対しては、初期対応を丁寧に行うとともに、ヒヤリハット事例を共有して事故の未然防止に努めていく。</li> <li>危険箇所については迅速に対応していく。</li> <li>持続可能な緑化管理や飼育栽培活動を進める。</li> <li>プール老朽化への対応を始め、大規模な修繕を要する箇所については、計画的に市教委とも連携していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動充実のための環境整備</li> <li>学校施設の安全管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校予算について、衛生・安全管理と教育活動の円滑な実施の視点で支出の見直しをもち、効率的に執行する。</li> <li>傷病者発生時、不審者侵入時、災害発生時等の対応訓練を全教職員で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険箇所・要修繕箇所等を一覧にし、優先順位を決めて着実に対応できているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育とも関連付けた栽培活動や花壇等の整備に力を入れ、学校環境緑化の取組は市や県でも評価された。</li> <li>うさぎの飼育環境の充実に向けて、室内飼育の期間を設定し、ケージの拡大や簡易型クーラー・ヒーターを導入した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急な修繕対応等も想定した予算管理をはじめ、安全で潤いのある教育環境づくりに努めていく。</li> <li>来校者の動線管理等の防犯対策、避難訓練、非常時を想定した対応訓練、避難誘導訓練等を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校緑化の成果等是有難いが、教職員の負担にならないよう工夫できるとよい。</li> <li>体力の低下は全国的な傾向であるため、学校だけでなく家庭や地域と連携して向上策を考えていけるとよい。</li> <li>浸水対策工事や放課後利用の予定に対して、教育活動や教職員の業務に支障が出ないように市と交渉すべきである。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>校地内巡回により施設・設備の安全点検を定期的に行う。</li> <li>けがの防止や食物アレルギーに係る対応等は複数のチェック体制で確実に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校事故や医療等を要した怪我の発生件数の削減(R6:39件→R7:35件、2学期末比較)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「医療等を要した怪我の発生件数(2学期末)」目標35件→47件。</li> <li>アレルギー除去食の提供ミス無し。</li> <li>2階昇降口前の階段タイルを補修するなど安全管理を徹底し、事故を防止した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育指導中や実技実習中のけがを防止するため、準備運動、事前指導、予備実験を徹底する。</li> <li>学級増や放課後利用を想定した教室配置等を検討する。</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統を踏まえながらも、前例にとられない活気ある職場環境を目指して、年次や職種を越えて職員間で柔軟に学び合う風土を醸成していく。</li> <li>学級担任のうち20代が半数以上、子育て世代も多い職員構成の中、情報伝達を徹底するとともに、同僚や上司の支援が大きい組織としてサポートし合っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員研修の充実</li> <li>働き方改革や業務の効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長・教頭による全教員の授業参観・指導、校内研修や年次研修等の機会をとらえた教員相互の授業参観、研究協議の実施(随時)</li> <li>教員自らの資質向上に向けて、1人1つ以上の研修を主体的に受講する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が学びの自律化や情報端末の活用をテーマに公開授業を行うとともに、相互に実践事例を共有する研修を実施しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの活用と主体的、対話的な学びが深い学びに結び付くように授業研究会や相互授業参観の充実を図り、全教職員が授業力、指導力の向上に努めた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚的な効果と、実感を伴った理解のバランスに留意しながら、デジタルとリアルとのベストミックスを目指して、全ての児童に分かりやすい授業を展開していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会への対応も必要ではあるが、書く活動なども大事にしてほしい。</li> <li>教職員は情熱をもって献身的に教育活動にあたっているが、空き時間や放課後の時間は確保できると良い。</li> <li>職員が一人で悩むようなことが無いよう風通しのよい職場環境づくりに努めてほしい。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>ノー会議デーの設定。</li> <li>繁忙期を除き勤務時間インターバル11～12hの推進。</li> <li>余剰授業時数削減、行事等見直し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員ストレスチェック集団分析結果の標準集団(全国平均)と比較した健康リスク減少。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教職員ストレスチェック集団分析結果(健康リスク)」37.5%減。</li> <li>教職員の時間外在校等時間1箇所45時間越えの職員数が減少した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度に向けて日課や年間行事等を見直し、放課後の研修時間等を確保していく。</li> <li>職員間の組織的な相互サポートを校内で共通理解していく。</li> </ul>	